

高等学校英語科における主体的に学習に取り組む態度の育成

－グループワークの実践を通して－

小瀬日菜子

教科領域コース

1. はじめに

平成30年に行われた高等学校学習指導要領改定により、観点別学習状況の評価が4観点から3観点到整理され、「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」に加え、新しく「主体的に学習に取り組む態度」が評価として加わった。この「主体的に学習に取り組む態度」の重要性を、以下のように説明している。

「主体的に学習に取り組む態度」の評価に際しては、単に継続的な行動や積極的な発言を行うなど、性格や行動面の傾向を評価するというのではなく、各教科等の「主体的に学習に取り組む態度」に係る観点の趣旨に照らして、知識及び技能を習得したり、思考力、判断力、表現力等を身につけたりするために、自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤するなど自らの学習を調整しながら、学ぼうとしているかどうかという意思的な側面を評価することが重要である。

(国立教育政策研究所, pp10-11.)

「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力、人間性等」を育成するために、「主体的・対話的で深い学び」を行うことが必要である。この学習態度を実現するためには、「グループワーク」の積極的な活用が効果的なのではないかと考えた。その発想の起点は、教科領域実習Ⅱの実習での試行にある。ペアワークやグループワークを積極的に取り入れた結果、1人では全く集中をしていなかった生徒が、集中して取り組むようになったのである。これは「相手に迷惑をかけてはいけない」という心理が働いた結果ではないかと推察される。またこのような学習形態は、教師の指導を補強することにもなる。多様な生徒の要望に応える机間巡視には限界があるが、同じ立場で理解・問題意識の共有ができる生徒同士での学び合いは、苦手意識を改善するのに有効ではないかと考えた。教員が一方的に情報を発信するのではなく、生徒同士でまず考え、教え合うことによって、生徒の資質・能力を効果的に伸ばすことができるのではないだろうか。今回の実践研究報告書は、実習校での経験を元に、自身が非常勤講師として勤めている勤務先で行ったグループワークの研究と調査の結果を報告するものである。

2. 実践研究

(1) 対象と実施期間

① 茨城県立 X 高校

- 第1学年 A 組 40名(男子22名, 女子18名)
- 第1学年 B 組 38名(男子22名, 女子16名)
- 第2学年 A 組 39名(男子20名, 女子19名)
- 第2学年 B 組 39名(男子19名, 女子20名)

② 調査期間

2022年6月23日～2023年1月13日(※夏季休暇及び冬季休暇は除く)

アンケート実施日

- 第1学年 B 組, 第2学年 B 組 2023年1月12日
- 第1学年 A 組, 第2学年 A 組 2023年1月13日

(2) 研究理由

グループワークを長期間行い、生徒に見られる変化を調査する。

(3) 研究方法

第1学年の「論理表現」の授業、第2学年の「英語表現」の授業でそれぞれ実施した。第1学年では、授業内で使用している、教科書『be Clear I』(いっずな書店)の補助教材『My English Portfolio』の設問の解答確認をする際にグループワークを行った。第2学年では、教科書『Departure』(大修館書店)の設問の解答確認をする際に行った。

(4) アンケート用紙の作成

アンケートは、生徒が意見を記入しやすいように匿名で実施し、学年と組は記入するよう指示した。アンケートの質問項目は以下の通りだ。3から5には理由を書く欄も作成した。

1. 英語の勉強は好きか
2. 英語は苦手か→特に苦手な技能について(聞く、話す、読む、書くの4項目)
3. グループワークは好きか
4. グループワークを通して英語力が向上したと感じるか
5. 今後もグループワークを行いたいのか

(5) アンケート結果

アンケートの結果は、集計後学年ごとにまとめた。結果は以下の通りである。

① 1年生 合計69名(欠席者9名)

1. 英語は好きか はい 49%(33人) いいえ 51%(36人)
2. 英語は苦手か はい 81%(56人) いいえ 19%(13人)
→苦手な技能 聞く 14%(8人) 話す 30%(17人) 読む 18%(10人) 書く 38%(21人)
3. グループワークは好きか はい 96%(66人) いいえ 4%(3人)

○「はい」と答えた主な理由

- ・友だちの意見を聞くことができるから。
 - ・協力して解くことができ、仲も深まるから。
 - ・分からないところを気軽に聞くことができるから。
- 「いいえ」と答えた主な理由
- ・同じ班の人に頼りすぎてしまうから。
4. グループワークを通して英語力が向上したと感じるか はい 87%(60人) いいえ 13%(9人)
- 「はい」と答えた主な理由
- ・分からないところをそのままにしないでおけるから。
 - ・友だちに教えてもらったことで分かるようになったから。
 - ・英作文で使える表現が増えてきたから。
- 「いいえ」と答えた主な理由
- ・特に実感はないから。
5. 今後もグループワークを続けたいか はい 94%(65人) いいえ 6%(4人)
- 「はい」と答えた主な理由
- ・意見を聞いたり、話し合ったりしたいから。
 - ・1人でやるより集中でき、意欲が上がるから。
 - ・英語だけでなくコミュニケーション能力の向上にも繋がるから。
- 「いいえ」と答えた主な理由
- ・1人でも解けるから。

② 2年生 合計75人(欠席者3名)

1. 英語の勉強は好きか はい 40%(30人) いいえ 60%(45人)
2. 英語は苦手か はい 81%(61人) いいえ 19%(14人)
→苦手な技能 聞く 15%(9人) 話す 26%(16人) 読む 20%(12人) 書く 39%(24人)
3. グループワークは好きか はい 77%(58人) いいえ 23%(17人)
- 「はい」と答えた主な理由
- ・自分の解答に間違いがあるか気づくことができ、自信が持てるから。
 - ・机を動かしたり、話し合いをしたりすることで眠くならないから。
 - ・みんなと話すのが楽しいから。
- 「いいえ」と答えた主な理由
- ・あまり話したことがない人と話すのが気まずいから。
4. グループワークを通して英語力が向上したと感じるか はい 65%(48人) いいえ 35%(27人)
- 「はい」と答えた主な理由
- ・互いに問題を教えたり教わったりする中で、理解が深まったから。
 - ・自分では思いつかない表現を知ることができ、日々の授業でも向上を実感しているから。
- 「いいえ」と答えた主な理由
- ・自分も同じグループの人分からない場合があるから。
5. 今後もグループワークを続けたいか はい 84%(63人) いいえ 16%(12人)

○「はい」と答えた主な理由

- ・1人だと問題を解くのが進みにくいから。
- ・話すことは得意ではないが、続けることで色々な人と話せるようになると思ったから。

○「いいえ」と答えた主な理由

- ・同じグループの人にやる気のない人がいると、自分のやる気も損なわれるから。

3. 研究の成果と今後の課題

(1) 研究の成果

グループワークに関するアンケートの結果を見ると、2学年より1学年の方がグループワークを好んで行っているということが分かった。特に、指名されることが怖いと感じている生徒も多くいるため、答えを一度確認できるグループワークは効果的なようだ。また、自分の答えに自信が持てるだけでなく、互いに教え合っ中で理解が深まる効果が見られていた。グループワークを通してコミュニケーション能力を向上させたいと考えている生徒がいることも明らかになった。しかし一方で、メンバー構成によっては逆効果になることも分かり、グループワーク中の巡回・机間指導の重要性も確認できた。

(2) 今後の課題

主体的に学習に取り組む態度を育成するためには、ICT機器の積極的な利用も効果的だと考える。GIGAスクール構想の影響で、現在は多くの学校でICT機器が使用されている。その結果、インターネット上で英語を学習するツールも授業中使用できるようになった。教科領域実習Ⅱでは、実習校がICT機器の使用が盛んであり、英語の授業では「Quizlet live」というアプリをよく使用していた。「Quizlet live」は、教員がウェブ上で単語カードを作成でき、それをスマホやタブレット端末を使って個人で復習に使ったり、グループでゲームをしたりしながら復習もできるものである。実習中もこのアプリは好評で、熱心に取り組む生徒の姿が多く見られた。グループ編成は、アプリ上で自動的に組まれる仕組みになっており、色々な生徒と交流する機会を与えることができる。以上から「Quizlet live」の活用は、生徒のやる気や自信を高め、主体的な態度の育成にも効果があるのではないかと考えた。ICT機器も積極的に使用し、生徒にとってより効果的な授業を作っていきたい。

引用参考文献

国立教育政策研究所.『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料【高等学校 外国語】』2022.